

月報 シオン山

2026年5月3日発行 (No507)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

【月間聖句】

神の霊によって導かれるものは皆、神の子なのです。

(ローマの信徒への手紙 8章14節)

行いを伴う信仰

大森秀夫

青少年活動をしていたころの体験です。

当時(20代初め)、職場(八幡厚生病院)でフォークダンス(FD)を指導していた高校の体育教師に誘われ、地域の公民館でのFDサークルに通うようになりました。また、公民館で新設された青年学級にも参加しました。

その後、公民館長から総理府(現内閣府)主催の「第3回青年の船」に参加しては、と声がかかりました。「青年の船(明治百年記念事業)」は、1969年9月27日～11月20日(53日間)、東南アジア6ヶ国を船で巡るというものでした。

約2か月の日程でしたが、幸いにも職場の理解で休暇を取ることができ、全国各地で青少年リーダーとして活躍をしている20～25歳の青年

約 360 名の一般団員の一人として乗船しました。タイ・ビルマ（現ミャンマー）・インドネシア・シンガポール・マレーシア・中華民国（台湾）を船内で宿泊しながら、関係行政機関への表敬訪問やバスで現地をめぐり、視察やスポーツ・文化交流を行いました。シンガポール港沖で、船の仲間たちから 23 歳の誕生日を祝ってもらったのも嬉しい思い出です。外国訪問は初めてで、当時は 1 ドルが 360 円・外貨の持出し制限もありました。

帰国後は、TV 局での報告会や報告書作成に取り組みました。また、自身の体験に基づく事後活動も大事なことで、その一環として青少年健全育成活動に取り組みました。

福岡県では、1967 年 2 月にボランティア活動を基調として、ボーイ・ガールスカウト、青年海外協力協会など主な団体 18 団体により「福岡県青少年団体連絡協議会」が結成され、青少年の健全育成に寄与しています。私は「日本青年国際交流機構 (IYEO)」の一員として、県青少年の集い・青年洋上セミナー・少年の船などの企画運営に参加しました。

1979 年、九州 8 県の持ち回りで運営していた「第 8 回九州青年の船」に班長として乗船することができました。訪問地は中華人民共和国（中国）で、9 月 10 日から 2 週間の船旅で、表敬訪問やスポーツ・文化交流などを行い、故宮博物院（紫禁城）や万里の長城なども見学しました。

帰国後、「九州青年の船福岡県会」の会長として、次年度内定の班長・一般団員に対する事前研修で“乗船後の事後活動”について話す機会を得ました。その中で、「青年の船の体験を生かすには、自身の生き方そのものが重要で、日々の行いによって周囲の人々に影響を与えることが肝要である」と…。日常生活の中で、「船に乗って変わった…」と言われるようになることが大切であると話しました。

それは、教会員としての生き方の原点でもありました。

ヤコブの手紙 2 2 章 14～18 節 に、“わたしの兄弟たち、自分は信仰を持っていると言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことができるでしょうか。もし、兄弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、あなたがたのだけれだが、彼らに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい」と言うだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょうか。信仰もこれと同じです。行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。しかし、「あなたには信仰があり、わたしには行いがある」と言う人がいるかもしれません。行いの伴わないあなたの信仰を見せなさい。そうすれば、わたしは行いによって、自分の信仰を見せましょう。”とあります。

「行いを伴う信仰生活」、なかなか難しいことですが、これからも続けて行きたいと思います。